

# 市長施政方針

2月28日に開会した平成25年第1回美祢市議会定例会の冒頭に村田弘司市長が平成25年度施政方針を発表しましたので、その全文を紹介します。



美祢市長  
村田 弘司

平成25年第一回美祢市議会定例会の開会に当たり、平成25年度の施政方針を申し述べ、市議会並びに市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げたいと存じます。

昨年末の衆議院議員総選挙における国民の審判の結果、自由民主党と公明党による連立政権が誕生いたしました。

安倍内閣総理大臣は、所信表明演説の中で、わが国の未来を脅かしている経済、震災復興、外交・安全保障、教育の4つの危機を突破していく決意を表明されました。

とりわけ、長引くデフレや円高が「頑張る人は報われる」という社会の信頼の基盤を根底から揺るがしているという考えから、経済の再生を最大かつ喫緊の課題とし、「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」という三本の矢で経済再生を推進する強い決意を述べられています。

そして、「日本人が自信を失ってしまったことが、わが国が直面する最大の危機であるが、自らの力で成長していこうという気概を失ってしまったら、個人も、国家も、明るい将来を切り拓くことはできない。『強い日本』を創るのは、他の誰でもなく、私たち自身である」と国民に訴えて所信表明演説を結ばれております。

現に、安倍首相が2パーセントの物価上昇率目標を掲げられたことによって、円安・株高など、わが国経済に明るい兆しが見え始め、緊急経済対策とあいまって、地方経済の好転にも期待を抱かせる状況にあります。

私は、安倍首相の所信表明演説を大きな期待を持って聞き入り、同時に国とわが美祢市を重ね合わせて考えてみたときに、共感を覚えずにはいられませんでした。

中山間地に位置する過疎地である美祢市は、坐したままでは、衰退するばかりであり、打って出なければ輝かしい未来は開けないということ

を常日頃から、機会あるごとに申し述べているところであります。

市民の皆様におかれましても、おひとりおひとりが、自信を持って、次世代が担うべき未来のためにも、共に前に向かって進んでいただくことをお願い申し上げます。

我々の誇りある美祢市を次の世代へ引き継いでいくには、美祢市が元気でなくてはならないと考えております。

このため、平成25年度を本年度掲げましたスプリング美祢のセカンドステージと位置付け、さらにステージアップをするために、大きく三つの施策を打ち出したところであります。一つ目に「国際交流の推進」、二つ目に「六次産業の創出」、そして三つ目として「ジオパーク活動の推進」という地域振興を加速するための三つのエンジン、すなわちトリプルエンジンを強化することといたしました。

このトリプルエンジンを相互にリンクさせながら、さらに大きく、強くすることで、ステージを高い段階に押し上げ、交流拠点都市の実現と美祢市の更なる躍進を図って参ります。

加えて、本年は市制施行5周年の節目であることから、様々な記念事業を予定しております。これらを市民の皆様と協働して盛り上げていくことで、市民力・地域力を強化して、

美祢市の輝かしい未来につなげて参りたいと考えております。

それでは、先ほど述べたトリプルエンジンと 5 周年記念事業について、具体的に申し述べたいと存じます。

## 一 国際交流の推進

まず、国際交流の推進についてであります。

昨年 7 月に、台湾との観光及び経済・産業の交流拡大を目指して、台北市に美祢市台湾観光・交流事務所を開所しました。

これは、わが国の基礎自治体として初の試みであり、台湾側にもかなりのインパクトを与えたものと考えております。

開所以来、職員を派遣して台湾のニーズを直接把握し、また、美祢市の魅力をリアルタイムに発信することにより、台湾と美祢市、ひいては山口県との交流の拡大に努めているところであります。今後、ますます活動を深めて参ります。

一昨年に台湾南投縣と相互の交流の推進を確認する協定を締結いたしました<sup>すいりきょう</sup>が、本年4月には南投縣にある水里郷から郷長ご一行をお招きして、友好協定を締結し、4月6日の「さくらまつり」の会場で水里郷の皆様を市民の皆様にご紹介しようと考えています。

また、市・商工会・観光協会・農協・県で組織する「美祢市国際観光・交流推進協議会」を設置し、認知度向上プロモーションなどの取組みにより、台湾、韓国との観光交流人口の拡大や物流、技術交流の促進を図って参ります。

さらには、今後の美祢市と台湾との経済交流を深めていく事業の一環として、台湾側の事業者を招へいし、美祢市において物産展や各種商談会、文化発表の場を同時開催することにより、市民の台湾への理解を深めるとともに、商談会をとおして経済交流を推進して参ります。

このように、台湾との交流をますます深めていく中で、スマートフォン、タブレット（携帯情報端末）が活用できるように情報通信環境の整備を行うことにより、台湾をはじめ東アジアの人々が美祢市を訪れやすくする環境を整備することも行います。

なお、平成 25 年度を目前に控えるにあたり、私の施策をより強化するため、この3月8日には台北駐福岡經濟文化辦事處の曾處長立会いの下、本市と山口市の間で観光・交流パートナー都市協定（ウィンウィン美祢・山口）を締結することにより、山口市は本市と同様、台湾との交流を積極的に行っておられ、県都としての歴史的文化遗产や美しい自然を有しておられます。本市と山口市が協力体制を強化することにより、国際競争力を備えた観光地を目指し、国内観光客はもとより台湾をはじめ東アジアからの観光客の増加を図り、交流人口の増加と地域経済の活性化を図って参ります。



## 二 六次産業の創出

次に六次産業の創出についてであります。

第一次産業、第二次産業と第三次産業の総合的な振興策として、本年度中に産業振興推進審議会の答申を踏まえ「美祢市六次産業化基本計画」を策定いたします。

この基本計画は、一次産業者が二次、三次産業に関わる本来の六次産業化に留まらず、二次、三次産業者が一次産業者と共に事業展開を行う「農商工連携」や、更に

は美祢市の特産である鋳工業製品まで含めた独自のプランであり、あらゆる形の新たな物作り事業を応援していこうとするものとしています。

平成 25 年度においては市民の皆様が、少しでも物作りに興味や関心を持って頂けるように、啓発セミナーや各種講習会、個別相談の開催、また、平成 24 年度に引き続いての新商品開発やパッケージのリニューアル経費等への支援を行うとともに、美祢市特産品のブランド化を行う「美祢ブランド」認証制度を創設することとしております。

この「美祢ブランド」認証制度により、国内はもとより台湾をはじめ海外にも通用する市民の誇りとなるような美祢市の特産品、地域ブランドの確立を図り、農林業者・商工業者の所得の向上、担い手の育成、さらには雇用の拡大等を目指して参ります。



## 三 ジオパーク活動の推進

次に、ジオパーク活動の推進についてであります。

ジオパークとは、ユネスコが支援する「大地の学習の場」であり、自然や文化遗产を保護し、教育や観光を通じて地域振興を図るものです。

地域の人々が、ふるさとの地形、地質の成り立ち、その上に成り立つ生態や歴史文化をよく知り、その価値を理解し、誇りを持つことで、適切に保全することができます。その素晴らしさをわかりやすく伝えること